

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

福竜丸だより

— 都立・第五福竜丸展示館ニュース —



文化放送の「青空会議」でマイクを通じて病室から家族に語りかける久保山愛吉さん(1954年8月6日)。

妻、すずさんへ
だいたいですが、ぼちぼちよくなってはいますけどね。先月の二日からの黄さんがまだ本当に回復してなくて、八月いっぱいかかれば、黄さんが治るんじゃないかと思っています。黄さんが治ってくれば、血球の方もずっとよくなるんじゃないかと自分ではそう思っていますから、あまり心

配してもきりが無いんだから、家の方で出来るだけの仕事をして病氣しないように暮らしておって下さい。今のところそれだけです。
長女、みや子ちゃんへ
どうもご苦労さんみや子。これから暑さに注意して、一生懸命勉強して下さい。お母ちゃんのいうことを聞いて、もうねえちゃんだから、やっちゃんときよ子のめ

※この文章は、久保山愛吉さんが亡くなる一カ月前、街頭録音番組「青空会議」で、入院先の国立第一病院から家族に語りかけた録音テープをおこしたものです(詳細二面)。

来館者の声から

今回で三度目の来館となりました。現在の世界の状況の中で、なぜ今、第五福竜丸なのか、自分でも不思議です。それほど、この船には勇気づけられます。

夏に広島、そして長崎へ行ってきました。この船は、「戦争」の犠牲ではありません。それなのに核の被害に遭う……。本当に現在は平和なのでしょうか……。

修理を終え、再び世界の平和を訴える船であって欲しいと思います(早稲田大学生活協同組合 秋元 聡)。

人類はなんと馬鹿げた事をしたのであろうか。己の欲望のためにだけに、こんな核兵器を作ったのか。世界の平和のために核兵器などは不要である。今は原水爆に及ばず、ICBM、中性子爆弾などの兵器が開発されている。絶対に核兵器はこの世からなくすべきである。二度とこんなことはやめて

ほしい。今度、戦争があれば人類は滅亡するだろう(江東区塩浜 徳永康喜)。

明日のビキニデーには用事があって来れないので、今日来ました。もう何回来たかおぼえていないほどここには来ているのですが、いつもその時の感じが違います。今日は、単に戦争になってほしくない、という気持ちだけではなく、そのための活動をやはり続けなければならぬなあ、とつくづく感じました。またそのうち必ず来ると思いますが、きっとその時にはその時なりの感じ方があるでしょう。

朝日新聞の「声」で福竜丸のことについて言っていた、二六才の会社員の人が当時、小学生だったという事は、現代のぼくたちには考えにくいことだ、ぼくたちの世代ももう一度よく平和というものについて考えないといけないなと思った(桐朋中 篠田)。

今、日本は平和である。戦争を知らない私を含めての世代は平和はあたり前のそこにあるものとして感じている。しかし、本当はそうではない、ということに改めて痛感した。誰かの犠牲の上に立って現在の平和があり、またその犠牲を無に帰してはならない。第五福竜丸をただの歴史的遺物としてではなく、平和のメッセージとしてではなく、平和のメッセージとして永く保存する運動を続けたい。頑張ってください(名古屋市立楠木中学校教諭 鈴木 章夫)。



焼津・弘徳院(86・3・1)

編集後記

▼数えきれないほどの船を造ってきた横川さんだが、「陸の船」は福竜丸が二隻目。陸の船は完成しても進水式もなければ、航海にも出ない。「自分の造った船の試験航海に乗船し、その船で食べる食事ほどおいしいものはない」と、横川さんは木造船はなやかし頃をなつかしむ。二月二十八日、横川さんの福竜丸、最後の仕事の日となった。「お世話になりました」▼金沢大作氏より寄贈していただいた、生前の久保山愛吉さんの録音テープには、久保山さんに語りかける、すずさん、娘さんの声も録音されている。映像と違う、音の持つ「力」を改めて感じさせられた。テープは久保山さんの家にも渡されたとのこと。すずさんほどんな思いで聞かれたらどうか(は)。

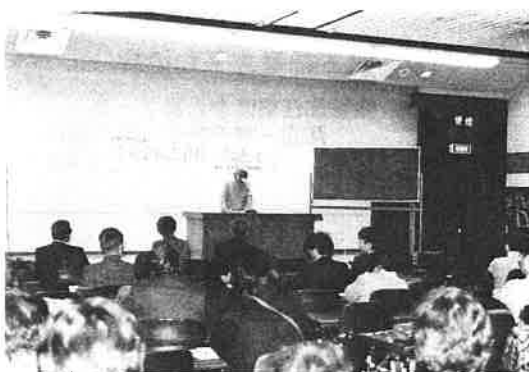
●100万人参観者運動を!

86年2月来館者数	6,801名
通算1カ月平均来館者数	5,341名
当月1日平均来館者数	283名
通算来館者数	624,947名

ビキニ水爆被災32周年記念集会開く

作家、松田解子さんを招いて

二月二十八日、国鉄労働会館で「三・一ビキニ事件記念集会(第五福竜丸平和協会主催)が開かれ約二百人が参加した。三宅泰雄会長の主催者あいさつの後、作家の松田解子さんの「第五福竜丸被災のころ」と題する記念講演と記録映画「生きていてよかった」(一九五六年度作品)の上映を行なった。



松田さんは当時の詩をおりませながら、いま人間の尊厳にたつ運

動のとき、など若々しく張りのある声で語り深い感銘を与えた。また、集会には全日本海員組合教宣部、手作りの反核ベルを広めている、「一步の会」の婦人らも参加し、高知から駆けつけた武政博

久保山愛吉さんの声鮮明に

元文化放送 ディレクター 金沢大作さんテープ寄贈

平和のために歩む―第五福竜丸展示館から二つの平和行進が出発した。二月十二日、焼津へむかう日本山妙法寺の行進団。三月一日、江東区ほか下町の路地を一週間歩く「再び許すな東京大空襲」の青年たち。ともに第五福竜丸の前で誓いの集いを開き船を一周、福竜丸の心、を沿道に訴えた。三月九日には東京大空襲記念日を前に、都内の数多い慰霊碑をめぐる展示館に集う見学会が二つ、時を同じくして持たれた。

三・一を前後に展示館は普段に倍する来館者で盛況。国立市桐朋中学校三年生は卒業の記念とクラス毎「死の灰」のスライドで学習

氏は、ビキニ水爆被災船をテーマにした自作の詩の朗読を行なった。一方、静岡市では三月二日、市民文化会館で統一して集会が開かれた。集会では、記念講演、今話題の本「千人針」の朗読などが行なわれ、最後に「静岡の心」を全国にと、3・1ビキニデー集会アピールを採択した。

2月展示館寸描

し見学、大田区矢口中学校二年生は「核兵器とは何か」など見学資料を持って三百七十人余大挙して社会科見学、筑波研究学園都市蚕糸試験場などで働く研究者もバスで…などなど。異色は和光小学校四年生六人の「福竜丸班」、数回の「調査」のあと事務所で質問攻勢、研究発表のためと原水爆からアイシニシュタイン、最後は中曾根・マルコス、自衛隊違憲論…と連日の見学者の説明には自信満々の館員もたじたじ。また、埼玉県新座二中の生徒は広島修学旅行の全校学習のためとビデオ福竜丸の作成にとりくんでいた。毎年市あげての原爆展を開く西

宮市の広報課から夏の展示会への協力要請に担当者が来館されたり、久保山愛吉さんの生前のテープの寄贈に東京の金沢大作さんが来館されるなどうれしいことも多い。金沢さんは当時文化放送のディレクターで、一九五四年八月六日、広島平和公園、焼津魚市場、東京国立第一病院を結んで行なわれた三元放送の担当者。放送局の録音テープの山からやっとさがしだされた久保山さん、すずさん、みや子さんの声が鮮明に残る複製テープを手に「やっ」と渡せて肩の荷がおりたよう」と感慨深げだ。

おりから第五福竜丸は一年二カ月におよんだ修復工事を完了。三月十四日の最終点検を経ていよいよ新航海へ出発する。いま展示館はあいついで訪れる人々に見守られ展示物の飾り付けにいそがしい。六月九日に展示館開設十周年記念講演会とレセプション。二月二十四日、神田学士会館でひらかれた平和協会第69回理事会は、船体修理の完成を祝い、展示館開設十周年を記念する講演会とレセプションを六月九日(月)午後三時(予定)から神田学士会館で開催することなど決定(講師等次号)。

ビキニ被爆詩集「海水のない造船所」

高知の船員、自費出版

武政さんが展示館に訪れたのは昨年十月。一日中小雨の降る寒い日であった。船員である武政さんは次の航海の合間を縫っての来館であった。事件のことは知っていたが、被災したのは福竜丸だけと思っていた武政さんは、船員の親睦団体の機関誌「新栄通信」(84年11月号、特集・神通川丸)を見て、福竜丸以外の被災の事実を初めて知る。武政さんは、「ビキニ被災船をテーマに詩集を出したい」と語った。それから四カ月、今年の一月末一冊の詩集が刊行された。題して「海水のない造船所」。

武政博さん(44)は貨物船の機関手。一航海二、三週間で全国の港を回る。航海中は故障がおきなければ、単調な海の生活が続く。その単調な生活の中で、武政さんはコッcottと詩を書き続ける。これまですでに二冊の詩集を刊行してきた。「プロが書かないテーマを書き続けていきたい」と、海の上から常に社会的事件に目を向けている。

故郷は「土佐の一本釣り」



「海水のない造船所」は、全国からたくさんのお話を集めて、校内放送のお話を書くおじさんとして有名である。航海からみると、学校から呼び

出しがあり、教室の子供たちにおもしろい話を披露する。武政さんは六人のお子さんの父親でもある。僕は詩人ではない。「海水のない造船所」(五百円)は自費出版でつくられた。十三編の詩がおさめられているが、被災船の船員たちの死を、苦しみを、同じ船乗りの問題として告発している。一度持ったテーマはとこと

海水のない造船所

武政 博

私が製作する船体は海水のない造船所で建造される一隻の模型ではあるが竜骨に打つ訴えは模型ではない

いま
海水のない二階の居間の木片の造船所から
五隻目の漁船が出漁する
乗り組むのは
かつての仲間の
失なつた青春と
奪われた生命と
核廃絶を願う三十年だ
そうだ
― 鮪漁船・第五福竜丸・
大石又七氏の証言から―

ん掘り下げたいという武政さんは、事件に遭遇した乗組員の心理状態を生るの声を聞き、納得いくまで書き続けたいという。「僕には多くの船乗りの訴えがある、平和への希求がある、イデオロギーと関係なく、核実験、核戦争に反対するエネルギーがある。僕はやはり詩人なんかではなく、海を守る船乗りなのである」

おれたちの血の一航海を
三十分の一の模型にして
第五福竜丸は
三十年を航走し
未来に向かって航海する
みる 黒痕もあざやかに
― 願う核軍縮・世界平和―
の文字を
おれたちの舷腹に描いて
海水のない造船所から
広島へ 長崎へ
母港・第五福竜丸展示館へ
そして
― 被爆体験を聞きたい― という
あらゆる小供達の教室へ
いま 出架する。